



令和8年度

内谷中学校学習案内 ～シラバス（第2学年）～



さいたま市立内谷中学校

〒336-0034 さいたま市南区内谷6-10-1

TEL 048-861-7571 FAX 048-836-1586

<http://uchiya-j.saitama-city.ed.jp>

国語科の目標
・言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。 ・社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ・社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ・言葉がもつ価値を認識するとともに言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
学習の特色
国語科の授業では、日常的な語彙の習得から、日本語を用いた思考力や表現力を養います。 目標にある「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、それぞれの意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることを指します。そのような目標に向かって、優れた言語感覚をもった生徒を育成します。 授業は、1・2年生は週4時間、3年生は週3時間で実施します。 日々の授業の中では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」について学習します。 また、ICTを活用することで、個々の意見や考えをクラス全体で可視化、共有し、一人ひとりの考えをさらに深めていけるようにします。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○社会生活に必要な国語の知識を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができているかどうか等を評価する。 ★定期テスト、小テスト、提出物の記述内容 等
②思考・判断・表現 ○筋道を立てて考える力や、豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができているか等を評価する。 ★定期テスト、提出物の記述内容、話し合い活動や、それらの活動に基づいた発表 等
③主体的に学習に取り組む態度 ○言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度等を評価する。 ★提出物の記述内容、授業中の発言や参加状況、ワークシート 等
評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 国語科 第2学年の目標

〔知識及び技能〕社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。

〔学びに向かう力、人間性等〕言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	詩 虹の足 ・言葉の意味や表現の効果、表現技法について捉えることができる。 小説 タオル ・象徴表現の効果や言動の意味に注意して、少年の心情の変化についてまとめることができる。 ・文学的な表現を通じて語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。 説明 日本の花火の楽しみ ・説明の仕方に注目しながら読み比べ、内容を捉えることができる。 ・図や写真と文章を関連づけながら内容を捉えることができる。 言葉 手紙・メールを整える ・敬語のはたらきについて理解し、話や文章の中で使い、文章の表現や構成を整えることができる。 文法 活用のある自立語 ・動詞の種類や活用について理解する。 □形容詞・形容動詞の役割や活用について理解する。 小説 夏の葬列 ・場面の展開や、登場人物の心情の変化を捉えることができる。 ・文中の表現に着目し、作品を解釈することができる。 漢字 硬筆 漢字の広場1・2 ・横罫線の用紙に楷書で書くことができる。
2 学 期	生活文 意見文 ・適切な根拠を示して、自分の意見が伝わるように工夫して文を書くことができる。 古典 敦盛の最期 一平家物語一 ・文章の特徴を生かして朗読し、物語に親しむことができる。 ・登場人物の言動や心情について話し合い、作品の理解を深めることができる。 古典 随筆の味わい 一枕草子・徒然草一 ・歴史的仮名遣いに注意し朗読することを通して、古文らしい表現や情緒にふれる。 ・作者のものの見方や考え方について、自分の考えを持つことができる。 古典 二千五百年前からのメッセージ 一孔子の言葉一 ・漢文訓読の方法を確認し、書き下し文を音読することができる。 漢字 漢字の広場3 説明 紙の建築 ・具体と抽象などに注意して読み、情報のつながりを理解することができる。 ・事例の役割や効果を確認し、得られた情報を整理しながら読むことができる。 文法 活用のない自立語 ・名詞、連体詞、副詞、接続詞、感動詞の種類と用法について理解することができる。 短歌の味わい ・情景や心情を表す言葉に注意して読み、作品の意味を捉えることができる。 毛筆 ・行書の特徴を理解し、字形を整え、文字の大きさ、配列、配置を意識して書くことができる。
3 学 期	説明 ガイアの知性 ・具体例と筆者の主張の関係を確認し、自分の考えと結び付けることができる。 小説 走れメロス ・時間の順序に沿って文章の構成を捉えることができる。 ・登場人物の言動に注目し、人物像を捉えることができる。 文法 付属語のいろいろ ・助詞のはたらきや、4つの分類「格助詞」「接続助詞」「副助詞」「終助詞」について理解することができる。 ・助動詞の種類とはたらきについて「助動詞活用表」を参考にして理解することができる。 漢字 漢字の広場4

社会科の目標	評価の観点等
・広い視野に立って、社会（世の中）に対する関心を高める。 ・資料を分析・活用して、多面的・多角的に考察し、表現できる力をつける。 ・国土と歴史に対する理解を深める。 ・グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国・社会を形成する一員として必要な、公民としての基礎を育成する。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色	
・身につけた基礎知識を活用し、思考力・判断力・表現力を高めていく教科です。単に覚えるだけではなく、一つの事柄を様々な視点から考えることで、より理解を深められるようにします。 ・世界の動向や地域社会の課題など、社会に課題意識を持ち、解決していくためのスキルを習得できるようにします。 ・授業では、基礎知識を理解するとともに、教科書を中心とした資料を活用し、資料に基づいて考察するなどの学習を進められるようにします。 ・先生の話だけでなく、クラスメイトの主張にも耳を傾けつつ、自分の考えを修正したり補強したりできるようにします。 ・興味・関心を高めたり、思考力・判断力・表現力を発揮したりする場として、授業内で自分の考えを、ICTを用いて発表する機会を設けていきます。 ・自主学習課題を工夫して進めることで、主体的に、知識だけでなく思考力・判断力・表現力も伸ばせるようにします。	①知識・技能 ○社会的事象に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的にまとめる技能を身に付けるようとしている。 ★ テスト（定期テストなど） ★ パフォーマンス課題 （レポートや ICT を用いたプレゼンテーションなど） ②思考・判断・表現 ○社会的事象の意味や意義を、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力や、その思考・判断の内容を説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。 ★授業中の話し合い等の諸活動への取組 ★テスト（定期テストなど） ★パフォーマンス課題 （ICTを用いたプレゼンテーション・レポートなど） ③主体的に学習に取り組む態度 ○社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。 ★授業中の取り組みの記録など ★パフォーマンス課題 （プレゼンテーション・レポートなど） 評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 社会科 第2学年の目標

〔知識及び技能〕我が国の国土や歴史、現代の政治・経済・国際関係などについて理解するとともに、諸資料から必要な情報を調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕社会的事象の意味や課題について多面的・多角的に考え、適切に判断するとともに、自分の考えを説明したり話し合ったりする力を養う。

〔学びに向かう力、人間性等〕社会的事象について主体的に学び、よりよい社会の実現を目指そうとする態度を養うとともに、社会の形成に参画しようとする力を育てる。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	＜歴史的分野＞ 第4章 近世の日本 17世紀、江戸幕府の成立から、19世紀前半の幕末前までを学習する。 - 江戸時代、幕府と藩による支配が確立されたこと、町人文化や生活文化が生まれたこと、幕府の政治がだんだん行き詰っていくことを理解する。 - 近世の社会が変化していく様子や、近世を大観した特色を多面的・多角的に考察し、表現する。 ＜地理的分野＞ 第2編 日本のさまざまな地域 第1章 地域調査の手法 身近な地域について、課題を追究したり、解決したりする活動を行う。 - 地域を調査するさまざまな手法（野外調査や文献調査、地形図の読み取り方など）の基礎を理解する。 - 調査の手法や結果を適切にまとめ、表現する力を身に付ける。 第2章 日本の地域的特色と地域区分 日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の4つについて、分布などに着目して特色を学ぶ。 4つの項目についての日本の特色を得るとともに、各種の主題図や資料を基に地域区分をする技能や、日本全体の特色を大観する力を身につける。 - 地域区分を基に、共通点や異なる点などに着目して、関連などを考察できるようになる。
2 学 期	＜地理的分野＞ 第2編 日本のさまざまな地域 第3章 日本の諸地域 日本を九州、中国・四国、近畿、中部、関東、東北、北海道の7つの地方に分け、以下の5つの中核となる考察の仕方を用いて、主題を設けて課題を追究・解決する。 ＜学習の中核となる考察の仕方＞ ① 自然環境 ②人口や都市・村落 ③産業 ④交通や通信 ⑤その他の事象 - 各地域について、中核となる考察の仕方を取り上げた事象、特色や課題を理解する。 - 各地域で見られる事象がどうして成立しているかを他の事象や課題と関連付けて考察する。
3 学 期	＜地理的分野＞ 第4章 地域の在り方 身近な地域に着目して、課題を追究したり解決したりする活動を行う。 - 地域の実態や課題解決のための取り組みについて理解する。 - 地域の結びつきや地域の変容、持続可能性などに着目して、課題の考察を表現する。 ＜歴史的分野＞ 第5章 開国と近代日本の歩み 19世紀ごろから20世紀のはじめのころまでの日本の歴史を、18世紀ごろからの世界の動きとの関わりの中で考える活動を行う。 - 欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことや、人々の生活が大きく変化したことなどを理解する。 - 近世の社会が変化していく様子や、近代の日本と世界を大観した時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現する。

数学科の目標
• 数学を学ぶことで、問題解決の喜びを感じ、人生をより豊かにする。このため、数学と人間との関わりや数学の社会的有用性についての認識を高められる生徒の育成をする。 • 社会生活などの様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められる能力を育成する。
学習の特色
数学科の授業では、定義をもとに、用語や知識の習得と、基本的計算の反復練習、根拠をもとにした説明能力をバランスよく身に付けていく。加えて、3年間を通して、美しく簡潔な解答を作成できる能力を育成する。 1、3年生は週4時間、2年生は週3時間の授業を行う。授業では、教科書やワークシートを活用し、前時の学習とのつながりを意識しながら、系統的に学習を進める。また、ICTを活用しながら、関数のグラフや図形などを視覚的に捉え、理解を深める授業を行う。 さらに、さいたま STEAMS 教育を踏まえ、「言語としての数学」を重視するとともに、他教科との関連を図りながら、自ら考え、問題を解決する力を育成する。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○各教科で身につけるべきとされる知識やスキルについて、十分に習得しているかを評価する。 ★定期テスト、ワークシート、ワーク、授業中の出題 等 ②思考・判断・表現 ○課題や問題に向き合って解決の糸口を見つけ、自らの思いを表現できているかを評価する。 ★定期テスト、ワークシート、ワーク、授業中の論理的な記述 等 ③主体的に学習に取り組む態度 ○生徒本人がいかに学習を調整して、知識を習得するために試行錯誤しているかを評価する。 ★定期テスト、授業中のグループ活動や発表・課題レポート 等 評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 数学科 第2学年の目標

〔知識及び技能〕数量や図形などに関する基礎的な概念や性質を理解するとともに、数学的に表現したり処理したりする技能を身に付けるようにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・的確に表現する力を養う。

〔学びに向かう力、人間性等〕数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	1章 式の計算 - 文字を用いた式の必要性和意味を理解する。 - 文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かすことができる。 - 文字を用いた式を活用した問題解決の過程をふり返し、評価・改善することができる。 2章 連立方程式 - 連立方程式の必要性和意味を理解する。 - 連立方程式について学んだことを生活や学習に生かすことができる。 - 連立方程式を活用した問題解決の過程をふり返し、評価・改善することができる。
2 学 期	3章 一次関数 - 一次関数の必要性和意味を理解する。 - 一次関数について学んだことを生活や学習に生かすことができる。 - 一次関数を活用した問題解決の過程をふり返し、評価・改善することができる。 4章 図形の調べ方 - 図形の性質などを証明することの必要性和意味を理解する。 - 平面図形の性質について学んだことを生活や学習に生かすことができる。 - 平面図形の性質を活用した問題解決の過程をふり返し、評価・改善することができる。
3 学 期	5章 図形の性質と証明 - 図形の性質などを証明することの必要性和意味を理解する。 - 三角形や平行四辺形の性質について学んだことを生活や学習に生かすことができる。 - 三角形や平行四辺形の性質を活用した問題解決の過程をふり返し、評価・改善することができる。 6章 場合の数と確率 - 場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を理解する。 - 確率について学んだことを生活や学習に生かすことができる。 - 確率を活用した問題解決の過程をふり返し、評価・改善することができる。 7章 箱ひげ図とデータの活用 - 箱ひげ図や四分位範囲の必要性和意味を理解する。 - 箱ひげ図や四分位範囲について学んだことを生活や学習に生かすことができる。 - 箱ひげ図や四分位範囲を活用した問題解決の過程をふり返し、評価・改善したり、多様な考えを認め、よりよく問題解決したりすることができる。

理科の目標
・身のまわりにある自然や物質、あるいは身の回りで起こっている現象について、調べ方を考え、予想をし、観察や実験を行って得られた結果を解析して規則性を把握することができるようになる。 ・そのために、自然や事物現象に対する知識を習得するとともに、その観察や実験で得られた結果を考察し表現する能力、自然や事物現象にいかに関心を持ち、生活の中に活用できるかを考えられる能力を育成することを目指す。
学習の特色
理科は、観察や実験を重視する教科であり、5教科の中でも実技的な要素を多く含んでいる。そのため、テストの結果だけでなく、観察・実験への取り組みやレポートの内容も含めて総合的に評価する。 各学年では、「生命」「地球」「物質」「エネルギー」に関する単元を学習する。さまざまな分野を学ぶ中で、自分の得意な内容や興味のある分野を見つけることができる。また、理科では他教科と関わる内容を扱うことも多く、理科を学ぶことで他教科への理解を深めることにもつながる。 さらに、理科は「疑問」から始まる教科である。常に疑問をもち、自分なりに考え、観察や実験を通して結果をまとめ、発表することができる力の育成を目指す。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○身のまわりの自然や物質、現象などについて知識を習得し、それを利用する事ができるとともに、観察・実験を適切に行い、結果をまとめることができる。 ★主にテスト・観察・実験レポート
②思考・判断・表現 ○身のまわりの自然や物質、現象などがどのような仕組みでそうになっているかを予想し、観察・実験で得た結果をもとに規則性を見つけて、表現することができる。 ★主にテスト、観察・実験レポート
③主体的に学習に取り組む態度 ○身のまわりの自然や物質、現象などについて、積極的に取り組む姿勢を持つとともに、習得した学習内容を自ら活用できるようにすることができる。 ★主に授業ノート、ワーク、レポート テスト、授業の取り組み状況等
評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 理科 第2学年の目標

教科目標	〔知識及び技能〕自然の事物・現象についての理解を深めるとともに、観察・実験などを行い、科学的に探究するために必要な基本的な技能を身に付けるようにする。 〔思考力、判断力、表現力等〕観察・実験などを通して、自然の事物・現象について科学的に考察し、根拠を基に判断するとともに、自分の考えを表現することができるようにする。 〔学びに向かう力、人間性等〕自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を大切にし、科学を日常生活や社会に生かそうとする態度を養う。		
指導計画		学習内容	学習のねらい
	1 学期	化学変化と原子・分子 ○物質の成り立ち ○物質の表し方 ○さまざまな化学変化 ○化学変化と物質の質量	○化学変化についての観察、実験を通して、物質の成り立ちやその量的な関係について理解する。 ○これらの事象を原子、分子のモデルと関連付けてみる見方や考え方を養う。
	2 学期	生物の体のつくりとはたらき ○生物の体をつくるもの ○植物の体のつくりとはたらき ○動物の体のつくりとはたらき ○動物の行動のしくみ	○身近な植物についての観察、実験を通して、植物のからだのつくりとはたらきを理解する。 ○身近な動物についての観察、実験を通して、動物のからだのつくりとはたらきを理解する。 ○動物の行動のしくみやその生活についての認識を深める。
		地球の大気と天気の変化 ○地球をとり巻く大気の様子 ○大気中の水の変化 ○天気の変化と大気の動き ○大気の動きと日本の四季	○身近な気象の観察、観測を通して、天気変化の規則性に気付く。 ○気象現象についてそれが起こる仕組みと規則性についての認識を深める。
	3 学期	電流とその利用 ○電流の性質 ○電流の正体 ○電流と磁界	○陰極線と電子の説明から金属中を流れる電流が電子の移動であることを理解する。 ○電流回路についての観察、実験を通して電流と電圧の関係および電流の働きについて理解する。 ○日常生活と関連付けて電流と磁界について初歩的な見方や考え方を養う。
評価方法	学期評価 ＊学習活動への取り組み、観察・実験の実技、ノートやレポート、定期試験などで評価します。 定期試験 ＊観点に分けて作成します（知識・技能、思考・判断・表現）		
学習方法	○教室での授業、及び理科室などでの実験、観察。（校舎外なども含む） ○デジタル教科書、映像などを利用した視聴覚的学習。 ○タブレットを活用した積極的な意見発表及び交換。（デジタル学習基盤の活用）		
その他	○実験室確保のため、教科書の順番を入れ替えて実施する場合があります。 ○安全に授業を進めるため、安全メガネを着用します。着用できない場合は、観察・実験が行えないこともあります。 ○1学年で購入した理科便覧は、引き続き3年生まで使用するので、大切に扱ってください。 ○授業道具は学校に置いておいてもよいです。安全眼鏡を自分で持っている人は、観察・実験授業時には必ず持って来てください。復習のために教科書やファイルなどを持ち帰るのは構いません。 ○配布されたプリント類は必ずファイルに保存してください。		

令和8年度 内谷中学校

音楽科 シラバス

音楽科の目標	評価の観点等
・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指しています。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色	
音楽の授業は、「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」を通して、日常のさまざまなことを、音楽と結びつけて考える力を身に付けること、また、その力をもって生涯を通して音楽を好きになっていくことが目標です。 音楽は週に1年生は1.5時間、2・3年生は1時間あります。1回1回の授業を大切にしていきたいと思います。 2学期には、合唱祭という大きな行事があります。限られた練習時間で歌えるようになるには、個々の努力やユニットでの団結力が必要です。ぜひ混声合唱で歌い合わせるハーモニーの美しさを味わってほしいと思います。 器楽に関しては、全学年でアルトリコーダーの授業の実施、1年生でアルトリコーダーの購入を検討しています。 その他1年生では箏、3年生ではクラシックギターの実技を行います。全学年で能管の練習を行います。 ICTを用いた作曲活動にも取り組む予定です。 また、管弦楽教室（第2学年）、合唱祭（全学年）、能・狂言鑑賞体験教室（全学年）小中合同音楽会（第3学年の1学級）といった学校外のホールにて、音楽に関する行事があります。	①知識・技能 ○曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能が身についているかを評価する。 ★実技テスト、リスニングテスト、授業中の実技の様子 等 ②思考・判断・表現 ○音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるかを評価する。 ★実技テスト、ワークシートの記述（鑑賞）、リスニングテスト 等 ③主体的に学習に取り組む態度 ○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培われているかを評価する。 ★感想等提出物の記述、授業中の取り組みや発言、テストへの取り組み ★その他、パートリーダーやピアノ、指揮をはじめ、クラスでの協働に尽力した部分を評価 評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 音楽科 第2学年の目標

〔知識及び技能〕曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
 〔思考力、判断力、表現力等〕知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
 〔学びに向かう力、人間性等〕曲想と音楽の構造との関わりや楽曲の背景との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習に取り組めるようにする。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	□「Jump」(内谷中発声練習)、校歌「白いノート」 ・よい発声で歌うことに必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 ・音楽の授業に積極的に取り組む雰囲気づくりができる。 □「合唱祭課題曲」 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。 ・音楽の要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚と感受の関わりを考え、曲にふさわしい表現を創意工夫する。 ・曲想と音楽の構造との関わりや歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。 □「交響曲第5番 ハ短調」 ・曲想と音楽の構造と関わりを理解する。 ・音楽の要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚と感受の関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、楽曲のよさを味わって聴く。 ・曲想と音楽の構造との関わりやオーケストラの豊かな響きに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。
2 学 期	□ユニットごとの選択自由曲（合唱祭に向けて） ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。 ・音楽の要素が生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚と感受の関わりについて考え、曲にふさわしい歌詞表現を創意工夫する。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心を持ち、クラスの仲間との音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。 □「浜辺の歌」「早春賦」「花の街」 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解する。創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 ・リズム、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌詞表現を創意工夫する。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。 □「ボレロ」 ・曲想と音楽の構造との関わりを理解する。 ・音楽の要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚と感受の関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、楽曲のよさを味わって聴く。 ・曲想と音楽の構造との関わりやオーケストラの音色や響きに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。 □サミングや息のコントロールを身に付けて表現を工夫しよう ・リコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて理解する。創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な息のコントロールやサミングなどの技能を身に付ける。 ・音楽の要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚と感受の関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。 ・リコーダーの音色や響きと奏法との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習に取り組む。
3 学 期	□雅楽「越天楽」 ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史を理解する。 ・音楽の要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚と感受の関わりについて考えるとともに、音楽表現の固有性について考え、楽曲のよさや美しさを味わって聴く。 ・音楽の特徴とその背景や歴史、雅楽の楽器に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。

美術科の目標
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方や考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育てていくことを目標としています。 ・造形的な視点を生かし、表現方法を工夫して、造形的に表すこと。 ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し、発想や構想を練ること、また美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めること。 ・創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うこと。
学習の特色
美術の授業では、「感じ取ったことや考えたことなど」や「目的や機能などを考えたこと」から発想や構想し、立体や平面の作品に表していく表現の活動や、美術や美術文化について、見方や感じ方を深める鑑賞の活動を通して、作品をつくりあげる喜びや、心豊かな生活を創造していこうとする気持ちを育みます。 美術は週に1年生は1.5時間、2・3年生は1時間しかありません。1時間の授業を大切に制作に取り組みましょう。また、「こんなところにも美術が使われている」「これを美術に生かしたら楽しそうだな」など、日ごろから皆さんの身の回りのものを美術的な視点で見ていくと美術の力につながることができます。 美術は自分なりの正解を創りだしていく授業です。ぜひ、自信をもって作品をつくりあげてください。

評価の観点等
評価の観点 ①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①知識及び技能 ○発想や構想したことなどを基に、創意工夫したり、見通しをもちながら表したりすること、用具を正しく用いているか、形や色彩などの性質や効果などを理解しているかななどを評価する。 ★ワークシート、作品制作の様子、作品などを総合的に評価
②思考力、判断力、表現力等 ○感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に発想や構想をしてくと共に、美術作品や美術の働きや美術文化に関する鑑賞を通して評価する。 ★ワークシート（アイデアスケッチや鑑賞）、作品制作の様子、作品などを総合的に評価
③学びに向かう力、人間性等 ○知識・技能や思考・判断・表現の能力を身に付けるために、どのように努力を重ね、主体的かつ意欲的に取り組んでいるかを評価する。 ★ワークシート（特に振り返りカード）、授業での取り組みの様子や、発言、作品での取り組みの工夫、などを総合的に評価
評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 美術科 第2学年の目標

〔知識及び技能〕造形的なよさや美しさ、表現方法などについて理解するとともに、材料や用具を適切に扱い、意図に応じて表現するための技能を身に付けるようにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕対象を見つめ感じ取る力や想像力を働かせ、豊かに発想し構想するとともに、創意工夫して表現したり、作品のよさや美しさを味わって鑑賞したりすることができるようにする。

〔学びに向かう力、人間性等〕主体的に美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を養うとともに、美術文化に親しみ、生活を心豊かにしようとする態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	オリエンテーション ・これからの1年間の美術の学習内容に取り組む意欲を高める。 ・美術の学習の目的を考え、授業を受ける心構えを理解し、作品を大切に作る気持ちをもつことができる。 その一枚が心を動かす ・キャラクターや文字の造形的な特徴などに着目し、形や色彩の工夫を理解している。 ・伝える相手や内容、伝える場面を基に、形や色彩による伝達の効果を考え、構想を練っている。 ・自分の作品を身の回りで使用し、展示して鑑賞するなど生活に活かそうとしている。 ・自分や友だちの作品を鑑賞し、表現の意図や工夫などについて考え、話し合っている。 問題意識をかたちに（展開するカード） ・作品の視点や構図の工夫による造形的なよさや美しさ、イメージの変化を感じ取っている。 ・感じ取った環境や生活の課題から主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、表現の構想を練っている。 ・自分や友だちの作品を鑑賞し、表現の意図や工夫などについて考え、話し合っている。
2 学 期	土と炎の造形～陶芸～ ・使いやすさと美しさや楽しさなどの視点から、形や色彩、材料などの効果を考え構想を練っている。 ・材料や用具を生かし、仕上がりの美しさ、手順などを総合的に考えて制作している。 ・作品を工夫して飾り鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を感じ取り、その思いや意図、表現の工夫などを感じ取っている。 心のイメージを形に ・感情やイメージなどから主題を生み出し、形や色彩、構成をなどで表現の構想を練っている。 ・材料や用具の特性を生かして表現方法を工夫しながらあわせている。 ・互いの作品を鑑賞し、主題をどう表したのか、表現の意図や工夫などについて話し合っている。
3 学 期	手から手へ受け継ぐ ・日本の風土やそこで生まれた伝統工芸を鑑賞し、そのよさや美しさを感じ取るとともに、SDGsの視点に関わることについて考えている。 芸術としての漫画表現 ・具体物や行為を表す形の特徴などに着目し、伝達のイメージなどをとらえ、画材の特性を生かし、見通しをもって表す。 ・伝えたいイメージ、伝える場面などをもとに、形や色彩などによる伝達の効果を考え、構想を練り鑑賞する。 ・作品鑑賞を通して、作品の工夫や作品への思い等を感じ取ることができる。

保健体育科の目標	評価の観点等
・保健体育を学ぶことで、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。 ・各種の運動の特性に応じた技能・健康・安全について理解し、基本的技能を身につける。 ・自他の課題を発見し、解決に向けて思考・判断し、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって運動に親しみ、健康保持・体力の向上を目指し明るく豊かな生活を営む態度を養う。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色	①知識・技能 ○運動の意味や成り立ちを知り、実際に行うことができるか評価する。また保健課題について理解を深められるか評価する。 ★テスト (小テストや実技テスト等) ★授業内の取り組み ★学習カード ②思考・判断・表現 ○自分の課題を見つけ、適した練習を選択し、課題を解決するために必要な力を身に付けたり、表現したりすることができるか評価する。 ★授業中の話し合い等の諸活動への取組 ★学習カード ★授業内の取組 ③主体的に学習に取り組む態度 ○健康や安全に留意し、一人一人の違いを認めながら、仲間と協力して積極的に学習に取り組んでいるか評価する。 ★授業中の取り組み方 ★学習カード
保健体育科の授業では、教科の目標をもとに、知識を習得し、それぞれの運動の特性に応じた行い方や運動をすることの意義や効果などについて科学的に理解できるようにします。基本的技能を身につけることで、生涯にわたって運動に親しむ資質をはぐくめるようにします。また、3年間を通して体力の向上を目指し、将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにすることを目指していきます。 1・2・3年生ともに週3時間、授業を行います。授業内では毎時間の目標をたて、教科書や学習カードを活用し、どうしたら上達したり、身につけたりすることができるのかを考えながら進めていきます。また、ICTを活用し、知識を深めるとともに、動画撮影等を行うことで、動きのイメージをより鮮明にし、分析したり、他者に伝えたりすることができるようになります。 1学期には体育祭を開催します。全学年が、学習の成果の発表の場として表現をしたり、競技力向上を目指したりします。活動を通して、集団としてのまとまりや他者を認める心を育てていきます。	評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 保健体育科 第2学年の目標

〔知識及び技能〕運動の特性や健康・安全について理解するとともに、各種の運動の技能を身に付け、健康で安全な生活を実践する力を養う。

〔思考力、判断力、表現力等〕自己や仲間の課題を発見し、運動や健康について考え、判断するとともに、課題の解決に向けて工夫したり、考えを伝えたりすることができるようにする。

〔学びに向かう力、人間性等〕運動に積極的に取り組み、健康の保持増進や体力の向上を目指すとともに、仲間と協力しながら主体的に学習に取り組む態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	○体育に関する知識 ・運動やスポーツの学び方や運動の効果を理解し、自己の生活につなげることができる。 ○体づくり運動 ・体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的にあった運動を身に付ける。 ○陸上競技Ⅰ（走り幅跳び） ・技術の名称や行い方などを理解し、基本的な動きや効率のよい動きを身に付ける。 ・動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○器械運動（跳び箱） ・器械運動の特性や成り立ち等を理解し、自己の能力に適した技をよりよくすることができる。 ・技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○水泳 ※気温によって、2学期も行う。 ・記録の向上や競争の楽しさを知り、技術の名称や行い方を理解し、泳法を身に付ける。 ・自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○保健（傷害の防止） ・交通事故や自然災害などによる傷害の要因を知り、要因を防ぐ方法を考えることができる。
2 学 期	○球技Ⅰ（ソフトボール・バスケットボール） ・基本的な技能や仲間と連携した動きを知り、仲間と連携した練習ができる。 ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○陸上競技Ⅱ（長距離走） ・自己にあったペースを見つけ、タイムを短縮したり競争したりできる。 ・動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○武道（柔道・剣道） ・基本動作と基本となる技を身に付ける。 ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○ダンス（創作ダンス） ・リズムに乗って全身で踊ることや、イメージを捉えて表現することができる。 ・表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○保健（傷害の防止・健康な生活と疾病の予防） ・交通事故や自然災害などによる傷害の要因を知り、要因を防ぐ方法を考えることができる。 ・生活習慣に関わる疾病を理解し、予防や健康を保持増進する方法を考えることができる。
3 学 期	○球技Ⅱ（アルティメット・バレーボール） ・基本的な技能や仲間と連携した動きを知り、仲間と連携した練習ができる。 ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○球技Ⅲ（サッカー） ・基本的な技能や仲間と連携した動きを知り、仲間と連携した練習ができる。 ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○保健（健康な生活と疾病の予防） ・生活習慣に関わる疾病を理解し、予防や健康を保持増進する方法を考えることができる。

令和 8 年度 内谷中学校 技術・家庭科（技術分野） シラバス

技術分野の目標	評価の観点等
技術分野では、生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術の関わりや技術のしくみ・原理等について理解を深め、自ら進んで生活を工夫し創造する能力と生活の中から問題（課題）を発見し、解決しようとする実践的な態度を育てることをねらいにしています。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色	①知識・技能 ○各分野で身につけるべきとされている知識や技能について、十分に習得できているかを評価する。 ★評価方法 ・提出物（プリント・ワークシート等） ・小テスト ・レポート ・作品（実習課題）等 ②思考・判断・表現 ○課題や問題に向き合って自らの考えや思いを表現できているか、課題を解決できているか等を評価する。 ★評価方法 ・提出物（プリント・ワークシート等） ・小テスト ・レポート ・作品（実習課題）等 ③主体的に学習に取り組む態度 ○授業（学習や実習）に取り組む態度、授業への参加状況・姿勢、課題等の記述内容等を評価する。 ★評価方法 ・授業の様子（姿勢・取り組み状況） ・提出物の記述内容等 ・作品（実習課題）等 評価規準：○ 評価方法：★

令和 8 年度 技術・家庭科（技術分野） 第2学年の目標

〔知識及び技能〕生活や社会で利用されている技術について理解するとともに、材料や工具、機器などを適切に活用し、製作・栽培・プログラミング等に関する基礎的な技能を身に付けるようにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし、課題の解決に向けて考え、工夫し、適切に表現することができるようにする。

〔学びに向かう力、人間性等〕よりよい生活や持続可能な社会の実現を目指して、主体的に技術とかかわり、仲間と協力しながら学習に取り組む態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	生物育成の技術「自分の力でおいしい野菜を栽培しよう！」 ・作物の生育について理解することができる。 ・生物育成に関する技術と社会や環境とのかかわりについて考えることができる。 ・作物の栽培技術について理解する。 ・栽培方法を知る。 ・栽培に適した条件を知る。 ・土壌の特質を知る。 ・肥料の特徴を知る。 ・栽培実習に取り組む。 ・社会や環境とのかかわりについて知る。 ・生物育成の技術とわたしたちの未来について考える。
2 学 期	エネルギー変換の技術「エネルギー変換を利活用し私たちの生活を豊かにしよう！」 ・人間はどのようにエネルギーを利用してきたかを考え、エネルギーの利用には様々な技術が必要なことについて理解することができる。 ・エネルギーについて知る。 ・エネルギー資源について知る。 ・二次エネルギーの利用について知る。 ・エネルギーの変換と効率について知る。 ・電気エネルギーについて知る。 ・熱・光・動力への変換と利用について知る。
3 学 期	エネルギー変換の技術「エネルギー変換を利活用し私たちの生活を豊かにしよう！」（2学期の続き） ・電気機器の構成と、回路図の表し方について知る。 ・電気回路について考える。 ・使用目的と使用条件を考慮して、製作品をつくることができる。 ・電子部品をはんだづけできる。 ・製作品を完成させる。 ・社会・環境とのかかわりについて考える。

令和8年度 内谷中学校 技術・家庭科（家庭分野） シラバス

家庭分野の目標	評価の観点等
•それぞれの分野について、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。 •生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現する力を養う。 •家族や地域の人びとと協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を養う。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色	①知識・技能 ○家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。 ★ テスト（単元テスト、技能テストなど） ★ レポート ②思考・判断・表現 ○生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 ★授業中の話し合い等の諸活動への取組 ★テスト（単元テストなど） ★レポート ★振り返りシート ③主体的に学習に取り組む態度 ○家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったり、改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ★授業中の取り組みの記録など ★レポート ★振り返りシート 評価規準：○ 評価方法：★

令和8年度 技術・家庭科（家庭分野） 第2学年の目標

〔知識及び技能〕 家族・家庭生活、衣食住、消費や環境などについて理解するとともに、生活をよりよくするために必要な基礎的な技能を身に付けるようにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕 生活の中から課題を見だし、よりよい生活の実現に向けて考え、工夫し、適切に表現することができるようにする。

〔学びに向かう力、人間性等〕 家族や地域の人々と協力し、生活を工夫し創造しようとするとともに、主体的に家庭生活の充実と持続可能な社会の実現に向けて取り組む態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	B【食事の役割と食習慣】 ○食事の役割 ○健康によい食習慣 ・健康によい食習慣や食事の役割について学び、自分の食生活を振り返る。 B【中学生に必要な栄養を満たす食事】 ○中学生の発達と必要な栄養 ○栄養素のはたらきと6つの基礎食品群 ・中学生の時期の身体的特徴や中学生に必要な栄養のとくちょうについて理解する。 B【献立づくり】 ○1日分の献立 ・1日分の献立作成の方法を理解する。
2 学 期	B【さまざまな食品とその選択】 ○生鮮食品の選択と保存 ○加工食品の選択 ・生鮮食品や加工食品の特徴を理解し、目的に応じた選択・保存ができる。 ○食品の安全と情報 ・情報を正確に読みとって判断し、選択できるようにする。 B【日常食の調理】 ○調理の計画 ○おいしさと調理 ○ますます好きになる肉の調理 ○こんなにおいしい魚の調理 ○好きになる野菜の調理 ・調理実習に必要な器具を正しく扱うことができる。 ・食品の調理上の性質を理解し、その特性を生かした調理ができる。 ・安全と衛生に留意した調理実習ができる。
3 学 期	B【地域の食文化】 ○地域の食文化 ・和食の特徴を知る。 ・地域で生産される食材の調理を通して、地域の食文化を理解する。 B【持続可能な食生活】 ○持続可能な食生活をめざして ・持続可能な食生活を送るために、食生活を工夫することができる。

令和8年度 内谷中学校 グローバル・スタディ科 シラバス

グローバル・スタディ科の目標	評価の観点等
① 第Ⅱ期（小5年～中1） 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。 ② 第Ⅲ期（中2～中3） 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色	①知識・技能 ○外国語の知識(単語や文法など)を理解しているかを評価するとともに、外国語の知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかを評価する。 ②思考・判断・表現 ○「話すこと」「書くこと」では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを表現したり、伝えあったりしているかを評価する。 ○「聞くこと」「読むこと」では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に 応じて、必要な情報や概要、要点を捉えているかを評価する。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、自分がさらに向上していこうとする意志的な側面を評価する。 観点①②③共通 ★定期テスト ★パフォーマンステスト ★授業の活動の様子 ★その他学年ごとに行うペーパーテスト等 評価規準：○ 評価方法：★
グローバル・スタディ科の授業では、基礎的な英語を習得し、それらを用いて「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」「読むこと」「書くこと」の4技能5領域をバランスよく身に付けます。加えて、3年間を通して実践的なコミュニケーション能力を育成します。 授業は週4時間と週5時間を交互に実施します。定期的にALTが授業に参加し、英語による言語活動を充実させます。授業は英語で行うことを基本としつつ、生徒の理解度に合わせて進めます。また、デジタル学習基盤を十全に活用することで、視覚的なイメージによる理解を促し、表現の幅を広げる工夫も取り入れます。 さらに、各教科の学習内容と関連させながら、我が国やさいたま市の伝統・文化への理解を深め、日本人としてのアイデンティティを醸成します。英語学習を自分の将来の夢や進路と結び付け、グローバルな視野を持つ生徒を育成します。	

令和8年度 グローバル・スタディ科 第2学年の目標

〔知識及び技能〕外国語によるコミュニケーションに必要な知識や技能を身に付けるとともに、外国の言語や文化について理解を深めるようにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕外国語を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合い、相手の話を理解しながら、適切に表現することができるようにする。

〔学びに向かう力、人間性等〕外国語を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとするとともに、異なる文化や考え方を尊重し、主体的に学習に取り組む態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
----	-------------

1 学 期	PROGRAM1 New Start ☐ 予定やこれからしようと思っていることなどを表現する。 ☐ 新学年の出来事や友だちについて話す。 ☐ 予定などについて、論理的に自分の意見を表現する。 PROGRAM2 Koshien Project in Africa ☐ 状況や条件などの詳細を表現する。 ☐ 甲子園プロジェクトについて話す。 ☐ 自分の考えについて、意欲的にやりとりする。 PROGRAM3 Taste of Culture ☐ 自身のしたいことや行動の目的などを表現する。 ☐ 世界の料理について話す。 ☐ 世界の食べ物の特色や魅力について意欲的にやりとりする。 ◆Our Project4 海外でヒットするラーメンのCMを作ろう ☐ 「ラーメンの魅力を伝える」プレゼンテーションをする。 ☐ 既習の言語材料の意味や働きを理解して、聞き手にわかりやすく伝える。 ☐ 考えや情報を整理して、積極的にやりとりをする。 Reading1 The Three Dolls ☐ 友人と物語の内容を共有するために、物語の重要な部分を理解し、自分の考えを含めて、論理的なレポートを書くことができる。
-------------	---

2 学 期	PROGRAM4 Leave Only Footprints ☐ 「すべきこと」、「してはいけないこと」などを表現する。 ☐ 環境問題などの地域の諸課題について話す。 ☐ 諸課題を解決するためのディスカッションに意欲的に取り組む。 PROGRAM5 Work Experience ☐ 何かの仕方や人やものの様子などを表現する。 ☐ 職場体験や働くことの大切さについて話す。 ☐ 友達からの質問や感想を生かして、自分の経験について書く。 PROGRAM6 High-Tech Nature ☐ 大きさや程度を比べることについて表現する。 ☐ 生物をヒントにして作られたものについて話す。 ☐ 諸問題に対する複数の解決策を比較しながら、意欲的にやりとりする。 Our Project5 日本のおすすめスポットを紹介しよう ☐ おすすめスポットについて、読み手にわかりやすいポスターを作成する。 ☐ 友だちと協力して調べ、積極的にアイデアを出す。 Reading2 Friendship beyond Time and Borders ☐ 記事を読み内容をわかりやすくまとめ、自分の考えなどを含めてレポートを書くことができる。
-------------	---

3 学 期	PROGRAM7 Unique Animals ☐ よりよいと思うものについて表現する。 ☐ ユニークな特徴や習慣をもつ動物について話す。 ☐ 複数のおすすめの場所やものを比較しながら、意欲的にやりとりする。 PROGRAM8 A Hope for Lasting Peace ☐ 「されていること」「されたこと」などを表現する。 ☐ 戦争の歴史や平和について話す。 ☐ 日本の歴史や文化などの魅力を、情報などを整理して意欲的に表現する。 Our Project6 My Hero の魅力を伝えよう ☐ 自分が尊敬する人物についてスピーチ原稿を書き、意欲的に発表をする。 ☐ 友だちのスピーチを聞き、感想や共感できる点を伝える。 Reading3 Apollo13 ☐ 英文を読み、内容の要点を整理しまとめ、簡単な紹介文を書くことができる。
-------------	--

令和8年度 内谷中学校 特別の教科 道徳 シラバス

特別の教科 道徳 の目標	評価の観点等
道徳性を養う ・道徳的価値について理解し、自己を見つめ、多面的・多角的に考え、生き方についての考えを深める。 ・道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。	【評価の観点】 次の点に重きを置いて、ひとりひとりの成長に着目し、評価する。 ○他者の考え方に触れ、議論し、自ら考える中で、より多面的・多角的な見方に発展しているか。 ○テーマにした道徳的内容の価値を自分自身のこととして考えたり行動に移したりしているか。
学習の特色	【評価の資料】 ○教師による授業中の観察や事後分析 ○道徳シート ○生徒による自己評価など
【4つの大きなテーマ】 ○主として自分自身に関すること ○主として人とかかわりに関すること ○主として集団や社会とかかわりに関すること ○主として生命や自然、崇高な者とかかわりに関すること ＊教科書では、それぞれの話題がどのテーマにあたるのか目次などに示されています 【授業】 ○主に各学年の教科書を使い、それぞれのテーマについて、一緒に考える。 ○クラスや学年の状況に応じて授業が進む。全体で同じテーマについて学んだり、クラスごとに話題が変わったりする時期がある。 ○デジタル学習基盤を活用し、意見交換や発表の手段・形態の多様化も図りながらすすめる。 ＊自分で考えたり探ったり、他の人と対話したり、教材の投げかけを考えたりするなかで、道徳で学習した内容の大切さに気付いたりこれからの自分をより深く考えたりすることが大切。 ＊考え方を広げていくためには、他の意見に耳を傾け受け止めることが重要。 ＊考えは表現しないと伝わりにくいので、話し合い活動では積極的に自分の意見を述べ、感想を書く際には自分の考え方をしっかり書く。 ＊授業で書いたワークシートなどは必ず提出・ファイリングする。	【評価・評定】 ○記述式の評価を行う。 数値や段階による評価・評定は行わない。

令和8年度 特別の教科 道徳 第2学年の学習内容

学期	教材名 【教科書：明日への扉 Gakken】
1 学 期	鳥のように空を飛びたい 高梨沙羅 旗 ごみ収集場所をどこに ソムチャイ君の笑顔 コスモスR計画 美しい母の顔 サキとタク ヨコスカネイビーパーカー 蹴り続けたボール ジャッジとチャレンジ 三度目の号泣 そこにいるだけでいい わたしのいもうと
2 学 期	父との約束 初めてのアルバイト 尾高惇忠が目指した富岡製糸場 キャッチボール 星置きの滝 ブラック・ジャック ふたりの黒い医者 ヒト・iPS 細胞を求めて 山中伸弥 つい言い過ぎて 危険地帯から実りの土地へ リンゴが教えてくれたこと 未来から来たおじいさん 足袋の季節 ものづくり 未来に響け“復興輪太鼓” 厳かなるもの
3 学 期	黒蜘蛛の元次 償い 金閣再建 黄金天井に挑む お通夜のこと 絶やしてはならない 緒方洪庵 五色桜 “私は大丈夫～そんな気持ちはないですか～” 帰郷

※学習する題材・教材は、各学級の実態やローテーション授業の都合により順序等が変わる場合があります。

総合的な学習の時間の目標
1. 主体的・協働的に学習に取り組む態度を養う 2. 課題を見だし、探究する力を身に付ける 3. 他者と協働し、よりよく関わる力を身に付ける 4. 自分の考えをまとめ、表現する力を身に付ける 5. 自己の生き方について考えを深める 6. SDGs を通して、日本や国際社会への理解を深める 7. STEAMS TIME を通して、問題解決能力を高める
学習の特色
1. 探究的な学習の過程を通して、課題の解決に必要な知識や技能を身に付けるとともに、探究的な学習のよさを理解する。 2. 実社会や実生活の中から問いを見だし、自ら課題を設定して、情報を集め、整理・分析し、まとめ・表現する力を身に付ける。 3. 探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。 総合的な学習の時間では、各教科で学んだことを生かしながら、教科横断的に学習を進める。また、学習の中で生まれた新たな課題についても探究し、3年間を通して継続的に学習を行う。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○探究の過程を通して、自分自身で取捨・選択し、整理し、既に、もっている知識や体験と結び付けながら、構造化し身に付けている。 ★観察、ワークシート、授業中の提出物等。
②思考・判断・表現 ○実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、整理・分析して、まとめ・表現している。 ★観察、ワークシート、ワーク、授業中提出物、発表等。
③主体的に学習に取り組む態度 ○身近な人々や社会、自然に興味・関心を持ち、他者と協働しながら、課題を探究し、自己の生き方を問い続けている。 ★観察、授業中のグループ活動や発表・課題レポート、まとめ等。
評価規準：○ 評価方法：★

総合的な学習の時間 学習内容

1 学年【自分の生き方・地域・進路】

- オリエンテーション
 - ・基礎学習講座
- 自分・他者について知る
 - ・適性検査や人間関係プログラム
- 地域（社会）を知る
 - ・調べ学習や防災学習（SDGs を意識）
 - ・身近な問題を解決する探究的な学習（Project Based Learning=PBL）
- 自分の生き方や将来について考える
 - ・校外学習やインタビュー等
 - ☆STEAMS TIME（PBL） ※プログラミング的思考を学ぶ（3時間）を含む

2 学年【職業・環境】

- オリエンテーション
 - ・基礎学習講座
- 職業について
 - ・自分、他者、社会 ・話し合い活動 ・調べ学習等 ・発表会
- 環境について
 - ・自然の教室について SDGs の視点で考える
- 身近なところから SDGs を実践する
 - ☆STEAMS TIME（PBL） ※プログラミング的思考を学ぶ（3時間）を含む

3 学年【国際理解】

- オリエンテーション
 - ・基礎学習講座
- 京都・奈良の文化を知る
 - ・調べ学習
 - ・歴史・伝統文化・まちづくり等とSDGsとの関連を調べ、考える
 - ☆STEAMS TIME（PBL） ※プログラミング的思考を学ぶ（3時間）を含む
- SDGs を通した国際理解
 - ・異国文化を知る

特別活動の目標	
集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、集団活動に自主的・実践的に取り組み、よりよい学校生活や人間関係を築こうとする態度を養う。 また、学級や学校生活の中から課題を見だし、話し合いや合意形成を通して解決に向けて取り組む力を育てるとともに、自己の生き方について考え、主体的に行動しようとする態度を養う。 1. 望ましい集団活動を通して、協力して活動する力を身に付ける。 2. 自己理解を深め、個性やよさを伸ばす。 3. 集団や社会の一員として、よりよい人間関係を築く力を身に付ける。 4. 課題の解決に向けて、自主的・実践的に取り組む態度を養う。 5. 自己の生き方について考え、主体的に行動しようとする態度を養う。	【生徒会活動を通して】 ・内谷中学校の全校生徒によって組織する生徒会において、生徒の自治意識を高め、学校生活の充実や改善向上を図る活動を支援し、また各学校行事に対し生徒の組織的な活動を支援し、集団及び生徒一人ひとりとしての自主的、実践的態度を育てます。 【学校行事を通して】 ・儀式的行事において、学校生活に有意義な変化や折り目をつけ、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開の動機づけを行うとともに、生徒の一人ひとりの社会性を高めます。 ・体育祭や合唱祭、総合的な学習の時間の発表会等を通して平素の学習成果を総合的に活かし、その向上への意欲を一層高めるような活動を展開しています。 ・旅行・集団宿泊的行事においては、1年次の校外学習、2年次の自然の教室、3年次の修学旅行を通して、平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化に親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験をつむことができるような活動を行います。 ・2年次に行う「未来くるワーク」体験の学習をもとに、勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職業や進路にかかわる啓発的な体験を支援していきます。
学習の特色	
【学級活動を通して】 ・生徒の規範意識を育み、よりよい学校生活の充実と向上を目指します。 ・日常の学校生活を通して、学校や学級の一員としての自覚と責任を高め、健康で安全な生活習慣を身に付けます。 ・家庭学習の計画づくりを支援し、主体的に学習に取り組む態度を育みます。 ・1年次には進路についての考えを広げ、自己理解を深めます。2年次には上級学校への理解を深め、進路選択を支援します。 ・「いのちの支え合い」をテーマに、各学年で自他の生命の大切さについて考えます。	【ご家庭へ】 中学校の学習は、各教科、特別の教科 道徳、特別活動及び総合的な学習の時間、さらに、さいたま市は構造改革特別区域法の認定による「潤いの時間」によって編成されています。 特別活動の目的に冒頭にある「望ましい生活習慣」を育成するためにご家庭においても「早寝、早起き、朝ごはん」等を心がけていただきますようお願いいたします。